

「楽しみながらのボランティア」

小野にハーモニカサークルがあることをご存知でしょうか。「小野楽しいハーモニカサークル」です。みなさんハーモニカの音に魅せられて集まっています。私も同じです。

ハーモニカは全く初歩でしたが、最近では童謡や唱歌などが演奏できるようになっています。練習中は譜面に必死ですが、でもみんなで合奏する喜びは大変大きなものです。私もその和やかな雰囲気の中で気持ちだけは若くして吹いています。

ところで、私たちのサークルに対して、いろいろな施設からの招待が来るようになってきました。今では年間10回程度各地で演奏しています。幼稚園、公民館、各地の敬老のつどい、養護老人ホームなどです。

演奏技術はまだですが、いろいろな人を楽しんでもらっています。歌声とハーモニカがひとつに調和するとき、緊張の中ですが、私たち演奏者にも大きな喜びとなり、大変な元気を与えていただきます。演奏会後は、もっと練習しようという気持ちも湧いてきます。

これがボランティアというものでしょうか。

From outside

利益の源泉について考えよう

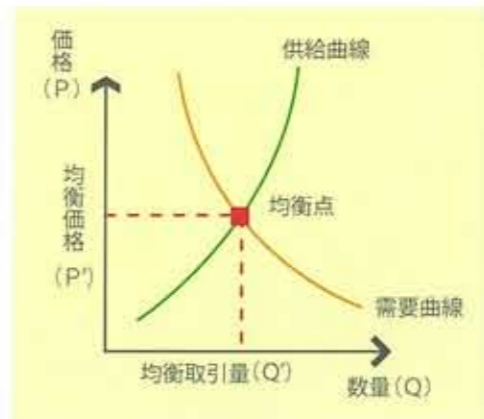
NPOを取り巻く現状、NPOに関する問題についてMr. Deeが語る！

求められる経営感覚と「透明な原価」とは？

「経営者の仕事は
値決めにあり」

企業の利益の源泉は「売上」ではない。たしかに「売上」は利益をもたらす第一の要素ではあるが、利益の源泉の全てではない。むしろ、利益の源泉は「原価」にあると考えるべきである。

近代経済学の価格理論によれば、価格は需要と供給の一致するところで決定されるといえるが、実際の経済社会において需要と供給が一致することはあり得ないので、価格はいつも需要者の思惑に左右される。絶えず「値引き」を求められるのである。この結果、原価を割り込んだ価格で取引される(売上が計上される)こともしばしばである。こういう意味で企業の利益の源泉は単に「売上の多い少ない」ではなく、「原価に十分な利潤を乗せられたところの売上を確保できるか否か」にあり、言い換えれば、



供給者にとって不本意な値引をいつ受け入れてもなお利潤を確保できるように原価を管理できているかどうかによって異なるのである。京セラ創業者の稲盛和夫氏は「経営者の仕事は値決めにあり」と教えているが、この言葉の真の意味は「正確な原価計算の結果算出され、十分な利潤を乗せられた価格によって取引すべき」ということを経営者に求めている。京セラグループが導入している

「アメリカ経営」といわれる考え方は、まさに利益の源泉は「原価」にあることを日頃からすべての従業員が意識している状態を目指さなければならぬというものであり、企業の経営環境が厳しさを増す今日、多くの企業で導入が相次いでいる。

「ボランティアという
透明な原価」

ところでNPOについても、利益の源泉が「原価」にあることは同じであるが、企業とNPOで決定的に異なる点がある。それは「原価の係り具合」である。企業では財やサービスの生産に係るすべての要素が原価計算に盛り込まれ、正確な原価を算定することが可能であるが、NPOにおいては「ボランティア」という「透明な原価」が多く計上され、残念ながら正確な原価が算定できない。NPOに

経営感覚が乏しい(従って値決めが出来ない)理由の1つにボランティアという「透明な原価」の存在がある。



Mr. Dee
(ミスターディー)

職業柄、NPOの経営や会計に詳しくなっちゃった男。曲ったことは許さない!他人にも自分にも厳しい、かなりの勉強家。今回の連載では、「外の目」でNPOを検証します。

ム「ちゃん」のつぶやき

「同志をお迎えして」

(2008年8月25日のブログ
「アルシェ日誌」より)

開館以来、多くの視察団をお迎えしています。お迎えする時には、ご質問内容をあらかじめお聞きし、時間を有効に使えるように準備します。来館目的は概ね、二つのタイプに分かれます。ひとつは、うるおい交流館エクラの施設見学。もうひとつは、NPO法人が指定管理者として館の管理運営をしている点を研究するため。

21日にお迎えした「NPO法人市民事務局かわにし」は、市民活動の拠点と男女共同参画センターを併せて、近い将来指定管理者として受ける準備のため、当法人を訪ねてこられました。副理事長であり、事務局長でもある三井ハルコさんからは、来館数週間まえから数多くの質問が寄せられ、何度もメールや電話のやりとりがありました。既にいろんな「痛み」を味わっておられるから、



それだけに熱心でしたし、真剣でした。行政が、指定管理制度を活用し民間に管理運営を委ねる目的は、たくさんありますが、大きな目的のひとつが「経費削減」。大切な税金ですから、「経費削減」は重要です。かといって、「非営利」の法人だからと、利益を出さなくて良いかのよう誤解され、NPO法人の「人件費」の積算が、「ボランティア」価格で計算されてしまい、間接経費も認められないのでは・・・

過去には、到底無理な費用の委託事業を、「社会的に意義がある。私たちがやらなければ」と使命感に燃えた人達が自腹を切った。その仕事を請けてきました。最初は、「想い」があっただけでやっていたことも、現実には厳しく、「霞み」を食べて「継続することは不可能です。」「想い」はいつの間にかしぼみ、あとに続く人もいなくなり、疲弊し解散して行くNPO法人も出てきました。「非営利」が「非経営」に陥ってしまったのです。

これは、委託を出す行政側だけでなく、受けるNPO側にも問題があります。三井さんが「あとに続く人たちのために、私たちがきちんと課題を整理して、安易に悪しき前例を作ってしまったはいけません!」と声を大きくされました。まったく同感です。「NPO法人に

就職したい!一生頑張りたい!」という若者をちゃんと受け入れられる「職種」にしたいと理事長と共に、闘ってきたこの数年。少しずつですが、実を結んできています。を感じる今日この頃。川西市のみなさんをお迎えし、短い時間でしたが、相通じるものがありました。「ここにも同志がいた事に、心躍り、胸を熱くしました。」

少子高齢化、若年人口の減少はやがて税収減につながります。このことは、今まで通りに行政サービスだけに頼ってはいけなくなることを物語っています。その足りなくなった部分を支えるのが、私達NPO法人の役割。将来の日本の社会にとって、NPOの存在は非常に重要だと考えています。アルシェの若い職員達が、誇りを持ってこの仕事を続け、10年後20年後、社会を大きく支えるNPO法人に成長している姿を夢んでいます。そして、その「夢」を見せてくれる職員たちの存在が、理事長と私のエネルギーの源でもあるのです。

来るべきネクスト・ソサエティに備え、都市部のNPO法人とも連携をとり、職員とともにスキルアップに励みます。

事務局長 向山 良子